

科目名		ロボット応用実習 2							年度	2024	
英語科目名		Robot application practical training 2							学期	通年	
学科・学年		ロボット科 1 年次		必／選	選 1	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員		山吹、寺澤、石川		教員の実務経験		有	実務経験の職種		機械設計・構造物設計施工(山吹)、電子回路設計エンジニア(寺澤)		
【科目の目的】											
ロボット業界で活躍するために必要な工具、材料などの応用技術を実践的に学びます。											
【科目の概要】											
ロボット応用実習1をベースとしてロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ（企業実習）、展示会見学などを単位認定します。											
【到達目標】											
自主的に研究活動行うなど、積極的に取り組む姿勢を習得する。グループで一つのものを作り上げるために必要な、チームワークや計画力などを習得する。											
【授業の注意点】											
事前に、活動内容について、担任の許可を得ること。グループでの活動がある場合は、積極的に関わり、協力して作業を行うこと。中途半端に投げださず、最後まで完成させること。レポート提出必須。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力						
到達目標 A	基本工具の名前使い方を理解している	基本工具の名前使い方を理解している	ニッパ、ペンチなど工具を利用できる	ドライバーを区別して使う	ドライバーの区別ができない						
到達目標 B	仕様に適した材料を選定できる	アルミの特性を理解している	アルミ材の加工ができる	アルミ、真鍮の違いを知っている	材料を知らない						
到達目標 C	仕様に適した回路を選定できる	回路図の動作を理解している	回路図をもとに組み立てができる	回路図を起こすことができる	回路を組み立てられない						
到達目標 D	仕様に適した機構を選定できる	機構の動作を理解している	図面をもとに機構を組み立てることができる	基本機構を図面に起こすことができる	機構を考えられない						
到達目標 E	仕様に適したプログラムを選定できる	プログラムを利用して動きを変更できる	動きとプログラムの関連を理解している	動作に必要な動きを理解している	プログラム作成ができない						
【教科書】											
情報リテラシーWindows10 / Office 2019対応 F O M出版											
【参考資料】											
【成績の評価方法・評価基準】											
課題（100%）毎回提出の課題で評価する											
演習のいずれかを記入。											

科目名		ロボット応用実習 2			年度	2024
英語表記		Robot application practical training 2			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	企画検討	課題を正しく理解する	1 企画の理解	大会等のレギュレーション企画理解	3	
				必要な機能動作を検討		
2	基本設計	課題解決にむけどのような方法で対応するか検討	1 仕様、動作検討	必要な機能の確認	3	
				機構機能の確認		
3	基本解析	課題解決に向け基本対応を確認する	1 動作シミュレーション	企画に対応できるか確認	3	
4	材料検討	必要な構造、材料を検討する	1 製作準備	材料の選択	3	
			2 基本加工	基本構造コア部作成		
5	機構試作	機械的部分の動作確認	1 仮組み立て	機構機能の動作確認	3	
6	機構確認	仕様を満たすか調整	1 機構機能確認調整	必要な機能動作ができるか調整	3	
7	電気回路試作	電気回路の検討	1 制御部検討	コントローラーの開発、モータ回路	3	
8	電気回路確認	仕様を満たすか確認調整	1 動作確認	仕様と比較して問題点の調整	3	
9	組み込み	機構内に電気回路を組み込む	1 組み込み調整	機構部に回路部を組み込む	3	
10	プログラム作成	モーション作成	1 動作プログラム	動作の確認	3	
				プログラム調整		
11	動作テスト	動作確認	1 動作確認	各モーションの確認	3	
12	修正	修正	1 調整	不具合箇所の調整	3	
13	トライアル	テスト運転	1 テスト動作	長時間動作試験	3	
14	習熟訓練	大会想定訓練	1 デモンストレーション	訓練	3	
15	確認（大会）	発表	1 発表（大会）	発表会	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等